

のり養殖通報第12報

千葉県水産総合研究センター東京湾漁業研究所

千葉県農林水産技術会議 平成31年3月5日発行

[気象・海況]内湾は依然リン低レベル、沖合水波及は一段落

- 2月前半は気温の上下変動が激しかったが後半以降は概ね平年を上回る気温で推移している。また1月中はほとんど降雨が無かったが2月の降水量は59mmでほぼ平年並み(60mm)となった(千葉气象台)。気象予報では今後、気温は平年を上回る日が多く天気は周期的に変化すると予想されている。
- 3月1日の観測では表層水温は内湾が9~11℃台、内房は11~13℃台。内湾では植物プランクトン(優占種はキートセロス等の小型珪藻)が依然やや多く、窒素は十分に含まれているもののリンの値は一部を除いて低レベルが続いている。内房もリンの値がやや少ない地点があるが湾奥部より多い量が含まれている(表1)。
- 新富津漁協自動観測ブイによる観測値では、2月中旬までは断続的な沖合水の波及により水温は10~15℃台の間での変動が続いていたが、24日頃から漁場への波及が弱まり、現在の水温は概ね12℃前後に落ち着きほぼ前年と同じ値で推移している。

[今後の留意点] 伸長状況好転と栄養塩回復に期待

- 富津岬以南では沖合水の波及が弱まり、水温低下によって魚類の食害が弱まることを期待されます。水温が低い場所を有効に活用しながら伸長状況を見極め状況好転を待ってください。東京湾漁業研究所でも生育状況の把握や水中カメラによる監視を続け必要な情報を発信していきます。
- リンが不足しややノリの色調が低下した海域がありますが観測終了後の3~4日にかけて42mmのまとまった降雨があり今後も周期的な降雨が予報されていることからリンの値の回復と栄養塩維持が期待できます。計画的な網管理で良質ノリの増産を目指してください。

本情報は東京湾海象情報システムよりダウンロードしてご覧ください。

次回は3月22日頃発行します。

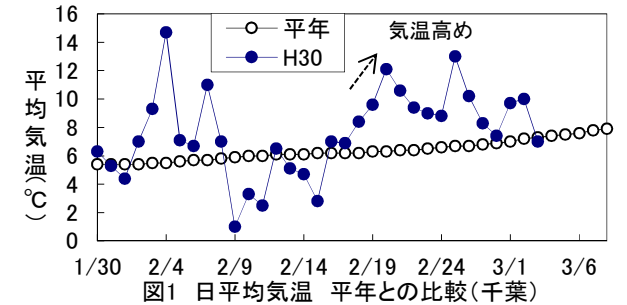


図1 日平均気温 平年との比較(千葉)

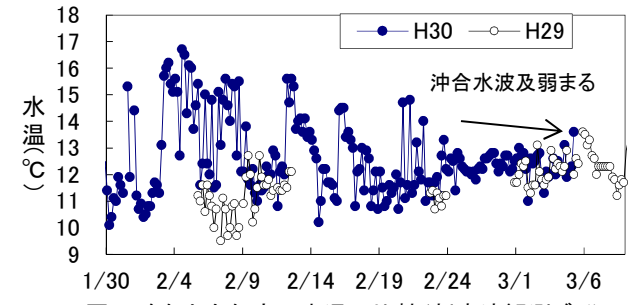


図2 昨年と今年度の水温の比較(新富津観測ブイ)

表1 水質観測結果(3/1)

	水温	塩分	pH	透明度	窒素*	リン**
船橋	9.6	31.5	8.5	3.0	301	2
盤洲Cブイ	11.0	32.0	8.3	3.8	329	8
盤洲Bブイ	10.5	31.8	8.4	5.0	305	1
盤洲Aブイ	10.4	31.8	8.4	5.5	307	2
富津ベタ	11.0	31.9	8.2	4.7	366	9
2海ほ下	11.9	33.2		5.0	233	7
大貫沖	13.3	33.8		8.0	158	7

*溶存無機態窒素 (μg/l)、**リン酸態リン (μg/l)

※高色調のノリの生産に必要なレベル 窒素 110 リン 8

ノリの色調の保持や健全な生育に必要なレベル 窒素 90 リン 5